防災かわら版

発行
緑区自立支援連絡協議会
防災部会
（緑区基幹センター
TEL：052-892-6333）
発行日
令和２年12月18日

家具転倒防止対策を

いつ来るか分からない地震への備えに

最も多い死亡原因

阪神・淡路大震災では、最も多い死亡原因が、「家屋の倒壊・家具類などの転倒による圧迫死」であり、全体の約９割を占めていました。そこで、緑区家具転倒防止ボランティアさんのご協力の下、当事業所で転倒防止対策をしました。元々、すでに何か所かは転倒防止対策を行っていたつもりでしたが、実際ボランティアさんと事業所内をチェックすると、予想以上の場所で防止対策が必要だという事が分かり、半日かけて作業を行っていただきました。

今、自分たちが出来る事

作業を終えて、いつ来るか分からない地震に対して、今、自分たちが出来る事の一つではありますが、本当に大切な作業であり、「自分が助からなければ、周りの人を助けることが出来ない」事を、改めて自覚しました。

生活介護ぱすてる小濱勝代

家具転倒防止対策動画を作成しました！
防災部会オリジナルです。
スマホからもご覧いただけます。事所の学習会でご活用ください。

名古屋大学「減災館」に行ってきました

減災館は、名古屋大学の中にあり、防災に関することが色々と体験でき、学べます。見学して印象に残っていることは、

①ＶＲカメラを装着して、地震時、どのように揺れるかの体験（身体の向きや高さを変えるとその視線での映像が見られとてもリアルでした）

②今昔マップ（今自分が住んでいる所は、昔はどうだったか？さかのぼって映像で見ることができるというマップ。私の地域は昔、沼でした）

③東日本大震災の時の揺れを地震装置と映像で完全再現したコーナー（高層ビルの上階から見た揺れ方は、とても大きく、迫力がありました）

減災館に行かれたことのない皆さん、オススメですよ！　梶田直美

防災街歩き

実際に「防災の目線」で歩いてみると予想以上の危険な場所が分かったり、役に立つ物があったりします。（下記の地図は、今回の街歩きで確認したものです）

今回は危険なところばかり発見しましたが・・・　なぜ危険か？分かりましたね。本当に、避難するときこの道を通るのでしょうか？ご家族で話し合ってください。皆様も、一度はご自宅から避難場所まで実際に歩いてみてください。２回目は非常持ち出し袋を持って歩いてみると、また違いますよ！

みどり災害ボランティアネットワーク　岡田雅美

協議会会長より　ひと言

このところ、防災をテーマにした研修会や体験会などは多く開かれていますが、障害のある方が実際に参加されることはなかなかないのが現状ではないでしょうか。

避難所を例にとっても、バリアフリーかどうか、音や人ごみに過敏な方々が落ち着いて過ごす工夫がされているかどうかなど、体験してみてわかること、一度やってみておくことで見直しができることなどがたくさんあると思うのに、とても残念なことだと思います。ぜひ、みんなで防災について考えていきましょう。

緑区自立支援連絡協議会会長　水野ゆり子

ＢＣＰ講演会のご案内

日　時　令和三年二月十六日（火）十時～十二時
場　所　ＺＯＯＭ講演会と徳重支所第３会議室
講　師　足立　育雄　先生（福祉ぼうさい研究所）
内　容　ＢＣＰを作成の基礎を学びます。
※ＢＣＰとは、事業継続計画の事。災害等の際に、事業所が被る被害を最小化し、事業を継続していく為の対策・計画を指します。

参加費　無料　主　催　防災部会
申し込み 892-6333　shien-c@gol.com（緑区基幹センター）

防災かわら版発行にあたって

このかわら版は、第７回緑区民のつどい（平成三十年一月開催）「今だから伝えたい、熊本からのメッセージ　地域の防災を考えよう」をきっかけで発足した防災部会が発行しています。今年は、コロナ感染の影響で、活動が制限される中、昨年度のとりくみを伝えて、各事業所でも、是非防災対策に取り組んでいただきたく発行しました。

山下交差点から千鳥ケ丘中学までを歩いてみました。